第２学年２・４組保健体育科学習指導案

日　時：平成２８年１１月２５日（金）
場　所：旭志中学校グラウンド
指導者：菊陽町立菊陽中学校　教諭　小野　寿大

１　単元名　球技：ゴール型（サッカー）

２　単元について

（１）単元観

①一般的特性

球技は、ゴール型・ネット型・ベースボール型から構成され、個人やチームの能力に応じて作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

サッカーは、手や腕以外の身体を使ってドリブルやパスなどのボール操作から、シュートを放ち、一定の時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゴール型の運動である。さらに、比較的ルールが少なく、プレーの自由度が大きい。コートも広く、絶えず動き続けることが必要となり、その中で、ストップ、ダッシュを繰り返すため、全身持久力や瞬発力の向上にも適している。また、常に周囲を見渡しながらプレーしなければならないため、状況判断能力の向上にも適している。サッカーは得点の入りにくい運動ではあるが、それだけに得点の入った時の喜びは大きい。そのため、作戦を立て、ゲームを行いながらゴールを目指して、仲間と協力する態度を身につけたり、作戦が成功し、得点を重ね、勝利に結びつけたりして達成感を味わうのに適した種目である。

②生徒からみた特性

遊びの中でも経験することが多く、大まかなルールをすでに把握しており、比較的取り組みやすい。また、Ｊリーグや W杯などメディアで取り上げられることが多いため、興味・関心を持つ生徒も多い。ただ、主に足を使ってコントロールすることから、苦手と感じている生徒や集団対集団のために、自分の立ち位置や、どのように動けばよいか分からない生徒もいる。

（２）系統観

（小学５，６年生）	（中学１，２年生）	（中学３年生、高校入学年次）
【球技】※ウは学校の実態に応じて取り扱わないことができる。 ア　ゴール型 イ　ネット型 ウ　ベースボール型 運動の楽しさに触れ、その技能を身につけることができるようにする。 〈既習種目〉 バレーボール、ティーボール ソフトボール、バスケットボール サッカー、タグラグビー など	【球技】※ア～ウは必須 ア　ゴール型 （サッカー・バスケットボール） イ　ネット型（バレーボール） ウ　ベースボール型 （ソフトボール） 勝敗を競う楽しさや、喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。 ※（　）は本校学習種目	【球技】※ア～ウから２つ選択 ア　ゴール型 （サッカー・バスケットボールから選択） イ　ネット型（バレーボール） ウ　ベースボール型 （ソフトボール） 勝敗を競う楽しさや、喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームが展開できるようにする。 ※（　）は本校学習種目

（３）生徒の実態（２組１６名、４組１６名、計３２名）

本学級の生徒は、サッカー部員が８名、サッカークラブチーム所属が３名である。サッカー経験者以外にも部活動入部生徒が数多くおり、全体的に運動能力は高い。部活動に入っていない生徒も運動には意欲的であり、活発に活動することができる。

本単元に関する事前アンケートの結果からは、サッカーに関する関心はかなり高く、その技術的

な特性や勝敗を競い合うところに十分な楽しみや意欲を感じていることがわかる。一方、技能向上に対する関心・意欲は大変高く、楽しいと感じている生徒が非常に多いが、教え合いの場面やみんなで作戦を考えたり、審判法を学んだりする場面は、あまり楽しさを感じられないようである。全体的に、説明や話し合いよりもボールを触って活動する場面が好きであることがわかる。体力を含め、パスやドリブル、ディフェンスなどの個人的技能を高めたいと思っている生徒が多いが、中には、アドバイスや指示、仲間とのコミュニケーションなど、自己の苦手なことの弱点補強への期待を持っている生徒も少なくない。

学習活動については、ややもすると単にみんなでサッカーを楽しんでいるだけの雰囲気になってしまい、本時のねらいや作戦、教え合いや技術の追求の意識に欠ける場面が見られることがある。

〈サッカーに関するアンケート結果〉

Ｑ１ サッカーは好きですか？	とても好き（１４人） 好き（１１人） どちらともいえない（７人） 嫌い（０人） とても嫌い（０人）
Ｑ２ サッカーのどんな時に楽しいと思いますか？ （複数回答）	できなかった技やプレーができるようになった時（１８人） パスをつないだり、アシストしたりしてチームに貢献できた時（２２人） シュートを決めた時（２０人）、作戦どおりにプレーできた時（１５人） 「教え合い学習」でアドバイスしたり、教えてもらったりした時（６人） 仲間と力を合わせたり声を出し合ったりしてプレーができた時（１１人） ゲームに勝つための作戦を考える時（８人）、ゲームに勝った時（２７人） ルールや審判を学んだ時（２人）
Ｑ３ サッカーの授業でどのような力を高めたいですか？（複数回答）	シュート技能（２３人）、ドリブル技能（１７人）、パス技能（２２人） ヘディングやコントロールの技能（２３人）、ディフェンスの技能（１９人） リーダー性（６人）、的確なアドバイスや指示ができる力（８人） 効果的な作戦や練習方法を考えることができる力（９人）、体力（２６人） 仲間とうまくコミュニケーションを図ることができる力（１３人）
Ｑ４ 授業外でもサッカーをしたいですか？	とても思う（７人） 思う（１７人） どちらとも（７人） 思わない（１人） 全く思わない（０人）

（４）指導観

『□しさと□びを□□し、□□□に□□に□りむ□□の□□』

～□□□□□□□□□□を□む□□づくりを□して～

指導に関しては、菊池郡市中体研の研究テーマを受け、以下のことに留意する。

■授業づくりの視点１ 学習指導過程の工夫

①単元計画の工夫

○オリエンテーションにおいて、学習のきまりや安全確認についての指導を行う。また、単元計画を配布することで学習のねらいや進め方、評価方法とその機会を示し、生徒に見通しを持たせる。

○活動内容を大きく変化させずに、「基礎・基本・発展」をパターン化し、活動時間を十分に確保することで、技能の向上と関わり合いの質の向上を目指していく。また、基本となる練習やゲームを行う際のコートの設定は、毎時間同じ形とするが、めあて達成のための「学習言葉」の精選やルールの工夫を行い、生徒たちがスムーズに活動し、少しでも運動量の確保ができるよう取り組んでいく。

②スキルウォーミングアップの推進

○体力の向上と基本技能の定着を目的として、毎時間の導入で補強運動とスキルウォーミングアップを行う。その際、前時で学習した技能のポイントや学習言葉を活用しながら生徒たちに問いかけて行うことにより、思考を停止させず、なおかつ運動量を確保する工夫を行う。前半は、曲に合わせながら柔軟性、筋力、敏捷性を高める運動を行う。そして後半では、ボールを使用しながら、ドリブルやパス＆コントロールなどの「ボール操作」を中心とした運動を行い、自己の技能や体力に応じて取り組ませていく。スキルウォーミングアップ終了後、各自心拍数を測定し、自己の身体の調子を確認させたり、体力の向上へとつなげていく。

■授業づくりの視点２　言語活動の充実

①協働的な学習の推進

○生徒同士の教え合い活動が充実するように、「学習言葉」を用いる。またその学習言葉をボードにまとめ、活用しやすいようにする。

○ただ単に、「学習言葉」を用いて個人やチームの課題のみを伝え合うだけでなく、良かったところを指摘したり、達成できたことをチームで確認し合ったりするなど、仲間やチームのことを認め合うことができるような教え合いを意識させていく。

○チーム編成においては、サッカーが得意な生徒と、そうでない生徒が、互いにコミュニケーションを取り、教え合い、協力して高め合う環境をつくる。また、サッカーが嫌いな生徒や苦手な生徒が集まらないようにし、ＱＵテストの結果からも、要支援群の生徒が集まらないよう配慮している。そうすることで、ペア学習やチーム練習を行っていく中で、スモールティーチャーをつくり、生徒たちが授業の中で互いに高め合える環境をつくる。また、つまずきの見られる生徒については、必要に応じて個別指導を行っていく。

○毎時間のまとめでは、チームや個人で学習のねらいについての振り返りを話し合わせたり、よい動きをしていた生徒を紹介したりして、学習の達成状況や、基礎的・基本的な動きのポイントを確認する。

②教具・資料の活用

○動きのイメージが持ちにくい場合は、資料の提示や模範演技をして視覚的に分かりやすいようにする。また、状況を確認することができない生徒に対しては、動きを一度止めて説明し、どこに原因があるかなど、確認しながら学習を進めていく。

３　単元の目標

（１）ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開できるようにする。（技能）

（２）球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。（関心・意欲・態度）

（３）球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。（知識、思考・判断）

5　本時の学習

（1）本時のねらい

○相手の動きに応じてスペースに走り込むことができる。（技能）

【スペースに走り込む動きのポイントを見付けている。（思考・判断）】

（2）本時の展開（８／１２）　　※アルファベットは菊池郡市中体研紀要に基づく

過程	時間	学習活動	学習形態	○教師の支援及び評価	備　考
つかむ	10分	1　挨拶・健康観察 2　準備運動 ・体操 ・補強運動 ・スキルウォーミングアップ ①ボールタッチ ②ドリブル ③パス＆コントロール ④シュート ・心拍数の測定	一斉 グループ	○人数、見学者の確認及び、健康観察を行う。 ○６チームに分かれて整列し、ペアを作ってスキルウォーミングアップを行う。 ○サッカーに必要な基本的動作を身につけさせる。(E) ボールタッチ・ドリブル→顔を上げる・細かくタッチ 左右の足など パス＆コントロール→顔を上げる・面で押す・次のプレーに繋がるコントロールなど シュート→軸足を強く踏み込む・力強く押し出す・四隅 ○心拍数を測定し、自己に応じた運動強度を知る。	音楽 掲示ボード
探る	20分	3　本時のねらいと学習内容を確認する。 相手の動きに応じてスペースを見つけ、得点を目指そう。 4　練習① ボールレシーブ 【方法】 ・パサー１人、攻撃２人、守備２人。 ・攻撃は、グリッドの外にいるパサーからグリッド内でボールを受ける。 ・パスを受けたら味方と連携し、シュート。守備は防ぐ。 5　マークを外す動き方、学習言葉について考える。	一斉 グループ 一斉 グループ	○本時のめあてを確認させる。 ○前回のゲームにおいて見られた課題を振り返らせる。(D) ○「ボールを持っていないとき」に守備者がいる状況でどのような動き方をするとボールを受けることができるかを考えさせながら練習させる。(F) ○練習がスムーズに行えない場合は、手でボールを扱って、動き方のイメージをつかませる。動き方のイメージがつかめた後、足でボールを扱って練習する。 【本時の学習言葉】 観る（相手を）、タイミング（動き出し） ○模範演技をし、「ボールを持っていないとき」はボールから離れてスペースを作ったり、スペースにタイミング良く走り込んでパスを受けたりすることが大切なことに気づかせる。「ボールを操作しているとき」は、周囲の動きを見逃さず、動きに合わせてパスが出せるようにすることが大切なことに気づかせる。(H) ○本時までの学習で出た学習言葉の中から、特に「観る（人、ボール）」「タイミング良く動く」「パスコースになる」などを意識してアドバイスするようにおさえる。(E)	掲示ボード ボール マーカー ビブス 学習言葉
確かめる	15分	6　練習② ミニゲーム （４対４＋１フリーマン） 【ルール】 ・フリーマンは常に攻撃側のアシスト役。 ・得点：一方向はゴールに決めると得点。もう一方向はコーン（２カ所）の間をドリブル通過で得点とする。 ・ハーフウェーラインをはさんで常に２対２の状況とする（フリーマンが入って攻撃側が３人となる）。 ・フリーマンには守備しない。フリーマンはシュートを打てない。	グループ	○学習活動４と５で学習したことを意識し、生かしながらゲームをするように促す。 ○チーム内でのアドバイスは学習言葉を積極的に用いるように伝える。 ○学習言葉の提示を行い、教え合いの質を活性化させる。(D)(E)(F) 【B評価】 相手の動きに応じてスペースを見付け、動くことができる。 【B評価に達するための手立て】 掲示ボードや学習言葉を利用し個別に指導する。	ゴール コーン
まとめる	5分	7　本時のまとめを行う。 ・本時の評価と課題 ・次時の説明 ・挨拶	一斉	○チームで協力して、後片付けを行う。 後片付けを行う際は安全面に配慮する。 ○本時の反省を行い、感想を発表させる。(F) ○次時の説明を聞く。	学習カード 作戦ボード

【思考・判断のＢ評価】スペースに走り込む動きのポイントについて、学習言葉を用いて見付けている。